

マクロ利益とマクロ成長 —消費経路か投資経路か—

中野 誠
吉永 裕登

目 次

- | | |
|----------------------|---------|
| 1. マクロ利益とアベノミクス | 4. 分析結果 |
| 2. 会計研究領域におけるマクロ経済研究 | 5. 終わりに |
| 3. リサーチ・デザイン | |

アベノミクスでは、好業績企業が積極的に投資を行い、また賃金を上昇させることで消費の拡大につながることが期待されている。本論文では、国内企業の業績改善が実際にその後の国内経済の成長を導くかどうか、また、その後の経済成長を導くのは「消費経路」なのか「投資経路」なのかについて、日本のデータを用いて分析する。分析結果から、少なくとも短期的には、国内企業の業績改善が将来の国内経済の成長を導く経路は、消費支出や政府支出の拡大ではなく、企業投資の積極化を経由したものであると考えられる。

1. マクロ利益とアベノミクス

われわれは長らく、利益数値を用いて個別企業の収益性・効率性・安全性・成長性を分析してきた。専門家である証券アナリストは、企業の利益数値を企業価値評価の重要なインプットとして活

用してきた。財務会計研究においても、第一にイベント・スタディーによる会計数値の意思決定有用性に関する研究、第二に企業レベルの会計数値と証券価格の因果関係を探求する研究が蓄積されてきた。二つの研究潮流に共通するモチベーションは、企業レベルでの会計数値と証券価格の相関



中野 誠 (なかの まこと)

一橋大学大学院経営管理研究科教授。1995年一橋大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学。一橋大学大学院国際企業戦略研究科助教授、商学研究科教授を経て2018年より現職。この間、日本銀行金融研究所客員研究員、シドニー大学ビジネススクール客員研究員、ASBJ無形資産専門委員を務める。主な著書に『マクロとミクロの実証会計』（中央経済社、17年、編著）、『戦略的コーポレートファイナンス』（日本経済新聞出版社、16年、単著）、*International Perspectives on Accounting and Corporate Behavior*. (Springer、14年、共編著)がある。博士（商学、一橋大学）。



吉永 裕登 (よしなが ゆうと)

東北大学大学院経済学研究科准教授。2018年一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了。同年4月より現職。博士（商学、一橋大学）。博士論文のテーマは『集約利益の情報内容に関する実証研究—利益・リターン関係に焦点を当てて—』。